

発刊に寄せて

会長 渡辺真悟

南嶺会は、一九三〇（昭和五）年六月十一日に創立され今年で九十五周年を迎えました。本会の名称及び会誌名に關して、会創立に携われたお一人の大澤伊三郎氏は「大町桂月翁の南アルプスを呼ぶに南高嶺を以てされたのよりとる」と南嶺第四号（一九七七年刊）に書かれています。このように、本会は南アルプスを中心にしてながら、様々な山域でオールランドな山行を重ね、南嶺第五号では白根南嶺（北岳（筈ヶ岳）の登山と研究、第六号では南アルプス全山縦走の記録などを取りまとめました。

二〇一一年に前号が発刊されて十四年を経過しましたが、その間、世界的な災いとなつた新型コロナウイルス感染拡大のため、私たちの生活にも大きな影響があり、当会も、例会や大勢での山行の自粛など活動の停滞を余儀なくされました。その後、新型コロナの五類移行に合わせて、徐々に活動を再開しております。

本号では奥秩父山域の研究として、文献調査を踏まえた金峰山古道の確認登山、紀行文と地図からの金峰山登山史の解説などを掲載しています。これらの記事を執筆された先輩方の豊富な知識と探究心、今なお持ち続ける山への情熱には敬服の念に堪えません。

現在、本会は会員数の減少と高齢化に伴い、個人山行や日帰り登山が多くなつております。以前に比べれば活動は停滞していると言えます。ただし、新しい仲間を迎えることができており、新しい方向性もみえつつあります。地域の山岳会として、登山の安全と人とのつながりを第一にしながら、登山と地域研究に取り組んでいきたいと思っております。

今日の南嶺会があるのは、諸先輩方の歴史の積み重ね、山梨県山岳連盟を始め関係各位の支援と交わりがあつたからにほかなりません。深く感謝致します。

南嶺会・目次

第七号発刊に寄せて	61
創立五十周年記念事業	60
創立五十周年記念事業の概要	58
大山登山と山陰旅行記	56
大山登山と山陰の旅	54
地域研究	54
金峰山古道	54
金峰山登山史から紀行文と地図を読む	54
木暮理太郎と田部重治	54
山行記録	54
ウオーターウォーキング	50
荒川 伝上沢、金石沢	46
二之瀬川 黒槐沢、水干沢	37
笛吹川 ナメラ沢 行者谷	37
日川 曲り沢	18
釜瀬川 大双里沢	10
乾徳山での出来事	9
大烏山ゴトメキ	8
久し振りの南嶺会懇親会(水ヶ森)	3
私達だけの間ノ岳 2015 2016	
甲斐駒ヶ岳日向八丁尾根	
茶臼岳	

隨想	111
念願の六一八九登頂の旅	110
エベレスト遠望の旅	107
旅を終えて	106
アンナプルナトレイル	97
アンナプルナ内院	94
ネペール紀行	93
ブータン旅行記	92
南嶺会に入会して早や六十年を振り返る	81
早川尾根について	78
旧街道を歩く	76
妻と九州の山々	74
谷川岳西黒尾根	73
エサオマントツタベツ岳	73
夢を追つてヒマラヤへ	72
カフパ塔ール	70
剣岳早月尾根	69
爺岳針ノ木岳	67
赤木沢	65
扇山百蔵山	63
三方分山	
伝付峠(筑ヶ岳)布引山	
伝付峠(筑ヶ岳)大門沢	
嚴冬期南ア全山縦走計画	

ある岳友の死	113	115	117	121	122
孤高の花を想う					
カワロリに想う					
南嶺会と私					
追悼	113	115	117	121	122
南嶺好漢錄 (続編)	113	115	117	121	122
15年	113	115	117	121	122
写真で見る 15年	113	115	117	121	122
事業一覧	113	115	117	121	122
会員名簿	113	115	117	121	122
規約	113	115	117	121	122